



K.I.F.A Plaza

第11号

1991年10月1日発行
〈発行〉
鎌ヶ谷市国際交流協会
編集・広報部会

活動
報告

海外派遣事業
オーストラリア

特別企画	新しい風	2・3面
写真特集	潮風の街シドニーへ	4・5面
活動報告	ホームステイに行ってきた	6・7面
あReこRe	ワールドフェア & バザール他	8面

羊の毛刈り、素早い手さばきに感心

ひとつの大陸の端から端までを国土とする国は、オーストラリアだけ。オーストラリア羊毛産業発祥の地、19世紀の自作農園がそのまま残された広大な牧場。そして、快適な気候という環境の中で育まれたオーストラリア人、気さくで明るく、とても親しみやすい人々。(関連記事4、5、6、7面)



新い風

風考

川端 作治

「花鳥風月」自然の美しい風景のひとつを代表する「風」風にはすべてを包容し、季節の移り変りを現し、変化を好む宇宙的な響きが伝わる語音があり、心洗われ、遊び心を持つ詩的な言葉である。

アメリカ風、ヨーロッパ風、中国風、日本風あるいは関東風、関西風とファジーな感覚さえある。さらに、涼風、春風、薫風、風光、風月、風景、風雪、風霜、風物、風土、など自然そのものという響きをも含んでいる。

自然とは、自ずから有がままということである。風もまた有がままに吹く様を本性としている。

国際交流も気負うことなく焦ることなく、有がままの自然体で。

と、しながらも、次のことを心掛けてのことである。

①相手の文化を理解する。②差別観を持たない。③相手の苦しみに思いやりがある。④ヒューマニズム（博愛心）を失わない。⑤自分だけの繁栄でなく共存、共栄である。⑥平和を常に心掛けて行動する。

しかしながら、どのテーマも一朝一夕に出来るものはない。異種文化との付き合いは、手仕事の経験の積み重ねしかなく、また、文化の問題はマニュアル化する事は難しい。加えてハード面の環境整備においておやである。

と、すれば、上にのびることばかり考えて、土の中に根を張ることを忘れないことが肝心である。台風並みのスピードで走っては息が切れてしまう。限りある人で担う現在のKIFAが、強弱風味織り交ぜて吹かせる風には限度があり、長い道程には寒風、強風、逆風とさまざまな風に遭遇することもあるだろうが、市民レベルの草の根の交流が根付き、追い風、順風に変わるまで、カメの速さでもいい、一步一步確実に前進することを合言葉に、KIFA独特の風に夢を乗せて、送りつづけてほしいものである。

小さい風・ふけ、ふけ、

堤 亜星

国際化が進む中で、オーストラリアに行って来て思ったことを、率直に書きたいと思います。

日本でも、外国でも、世界が急変する中で国際化というのが注目されているときだと思います。

他の国の人達と交流して、その人達の考え方などを知ることとはとても重要なことだといつも思っていますが、

本当に関心を持っている人は、どのくらいいるものでしょうか。国際化と簡単にいうけど、実はすごく難しい事なのではないかと思いました。

オーストラリアは、日本人がとても多く中国人もその他いろいろな国の人達もいる大きな国でした。そのためか他の国の人を受け入れることに対して、そんなに抵抗はないみたいでした。

日本は、出て行くばかりで、受け入れる方は、あまり積極的ではないように思えます。とはいっても、そんなに簡単にできることではないけれども。

難しいし、なかなか出来ないことだと思うけれども、もう少し小さい事から出来たら良いのではないかと思います。たとえば、道を聞かれたら身振り手振りでも教えてあげるなど、ほんとに小さな事からでも出来たら、国際交流環境が少しずつ変わって行くのではないのでしょうか。理論より実践。

鎌ヶ谷に小さな風、ふけ、ふけ……



「国際化時代」と言われることについて

真塩 知佳

国際化時代、国際的社會など何かと「国際」という二文字の人気がある時代なのだと感じる今日このごろである。しかし私は、国際化という言葉を知るとき、そこに何か仰々しいものを感じてしまうのだ。

たとえば国際交流という言葉がある。外国人と触れ合おうということなのだろうが、そこで「外国人と」となせ特別に考えなければならぬのか分からない。人との触れ合いを大切にすることには賛成だが、触れ合う相手の国籍などどうでもいいではないか。

つまり、外国人と親しくなりたいからといって外国人を探すより、たまたま気のあった友人の一人が外国籍の人であったというほうが、お互いにより自然に触れ合え



るのではないかと思うのである。幸いなことに、鎌ヶ谷は東京に近いこともあって、自分の行動範囲さえ広げていけばその中にはいろいろな人たちがいるものだ。

それから、外国人と話したいから英語を勉強する。あるいは英語ができないから、できるようになったら外国人と交流するという人がある。言ってしまうと英語ができないことを理由にしている人は、たとえ英語ができたとしてもたいして変らないだろう。英語はできるにこしたことはないが、相手が必ずしも英語を話すとはかぎらないし、言葉が通じなければ人と心を通わせられないというわけでもない。

まったくおかしな話なのだが、私はあるアメリカの友人と電話で話すとき、日本語と英語のバイリンガルになってしまうことがよくある。お互いの練習のため、彼は日本語私は英語で話すのだ。仮に私が日本語で話しても彼は困らないだろうと思うのだが。

おそらく本当に国際的な人にとっては、「国際」という言葉は特に必要ではないのだろうと思う。国際化時代に向って新しい風を吹かそうなどと叫ばなくても、ナチュラルにただリラックスしていればそれで十分な気がする。そうして少しずつ世界が開けていけば、温かな人との触れ合いが自然にできていくのだと思う。

アメリカ生活を変えた夫妻との出会い 岡野喜久江

1978年、アメリカのシカゴ郊外。あるレストランで一組の老夫婦が食事をしていました。「あそこで一人で淋しそうに食べている青年は日本人かしら」「そうかも知れない、ちょっと聞いてこよう」そんな会話の後おじいさんは席をたち、その青年の所に言って話しかけたのです。「やっぱり日本人だったよ。中国から帰ったらお茶に呼んであげるといい。奥さんは半年しないと来れないそうだし」。これが渡米後間もない夫とカールソン夫妻との最初の出会いでした。肉親と遠く離れて暮らした11年間。この御夫妻との出会いが無かったら私たちのアメリカ生活も随分違ったものになっていたでしょう。

無知ゆえに、アジアの小国から来た人々に対して差別

的な気持ちを持つお年寄りもいるものですが、夫妻は世界中を旅しておられ、日本も何度が訪れていました。又、敬虔なクリスチャンでもあり、見返りを求めない大きな愛を持って私たちを家族のように扱って下さったのです。長女が生まれた時、一番にお花とぬいぐるみを持って病院に駆けつけて下さって以来、娘たちの誕生日には必ずカード、プレゼント、手作りケーキを用意して招いて下さり、本当の孫のように可愛がって下さいました。親戚中が集まるクリスマス、感謝祭、復活祭のご馳走もミセス・カールソンの手料理でした。お腹一杯いただいた後は、みんなで皿洗いをして、お庭で採れたミスター・カールソン手作りの野菜やお花を頂いて家路につくのです。私にとっても正に実家に里帰りしたような気持ちにさせてくれるお宅でした。何よりも嬉しかったのは、彼らは相手の国民性や文化を理解しようと努め私たちのような若輩者でも対等にお付き合い下さったことでした。

日本でも外国からの留学生の手助けをして財産を失いそうだという方のお話を聞くこともありますが、そこまでりっぱになれなくても、私にでも、貴方にでも出来る事があるような気がするのです。一人の日本人が一人の外国人の友達を持って、時々



家に呼んであげたり一緒に出かけたりするだけで沢山の外国人の力になれるのです。そしてお互いの文化やお国柄を理解し合うことで私たちも又視野を広げる事が出来る、それこそが市民レベルでの国際交流だと言えるのではないのでしょうか。けして大金を使う必要はないのです。私は、経済的に豊かだったはずのカールソン夫妻から、いかに堅実に質素に生活するかを見せていただきました。言葉だって日本語と英語のチャンポンでもいい、要は「誠意を持って」「対等に」お付き合いするという事が大事なのです。

KIFAには現在ほとんど外国人の会員がいません。彼らのメリットになることを作り協会員になってもらうことが、外国人と友達になれたらと思っている日本人会員のメリットにもなるのです。KIFAはまだ出来たばかりの若い協会ですが、派遣部、研修部、交流部とそれなりの成果を上げています。しかし、これからはもっと新しい試みに意欲的に取り組み、**市民と外国人との出会いの場**をより多く提供出来るようにする事が必要だと思うのです。

KIFAの活動をきっかけに一人でも多くの外国人が、私たち家族がさせていたいただいたような経験をして日本を好きになってくれたらと願っています。



モスマン市庁舎：小さな近代的建築物。Peter Clive 市長は、わざわざマントを、助役さんは、かつらまでつけ、気軽に写真に入ってくださいました。



モスマン警察署：モスマン市に所属する警察署。平屋建てで、お茶目な所長さんに、牢屋に閉じ込められました。



オールド・シドニー・タウン：「シドニーの明治村」と言われ、1800年代初期の衣装を着けたへいたいの行進、開拓時代の面影があり、200年前のオーストラリアにタイムスリップ。



潮風の街

ブルー・マウンテンズ（Blue Mountains）：1000 m 級の山々が連なり、断崖代表的観光地。

ホームステイ（7月26日～8月12日）

日付	日程	日付	日程
7月26日	成田発空路シドニーへ	8月4日	終日ホストファミリーと共に
7月27日	ホストファミリーと共に	8月5日	午前、英語研修
7月28日	ホストファミリーと共に	8月6日	午前、英語研修 ノースシドニー市庁舎 表敬訪問・市施設見学
7月29日	午前、英語研修 モスマン支庁舎表敬訪問 市施設見学	8月7日	ブルーマウンテン見学
7月30日	午前、英語研修	8月8日	午後青少年輔導センター見学 夕刻、サヨナラパーティー
7月31日	午前、英語研修 レインコープ福祉センター見学	8月9日	シドニー市内見学
8月1日	午前、英語研修	8月10日	シドニー近郊見学（オペラ他）
8月2日	午前、英語研修	8月11日	自由行動
8月3日	グッド牧場 フェザーデール動物園	8月12日	シドニー発空路日本へ



ホームステイ先：ホストファミリーの Lee さんの息子さんのお子さんと一緒に

シドニーへ



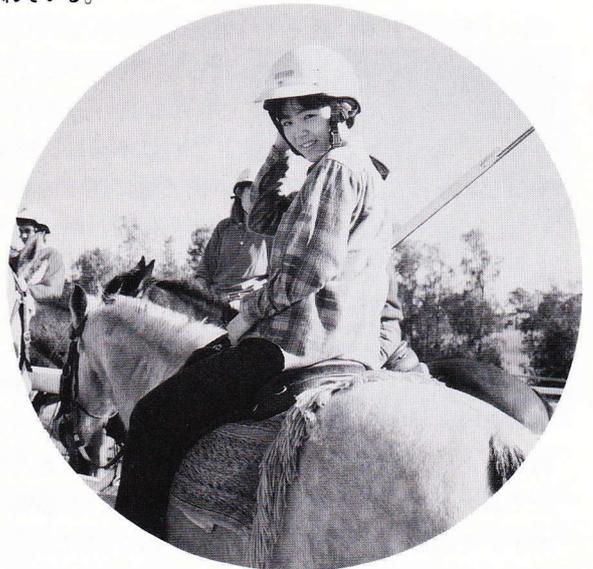
、狭谷、奇岩、滝と変化に富んだ景観で、市民が週末を送る絶好の有名な



オペラ・ハウス (Opera House) : デンマーク建築家の設計にする白い輝き貝殻状の屋根が印象的な建物で、内部は、コンサート・ホール、オペラ劇場、映画館、レコーディングなど5つのホールに分かれている。



ノースシドニー市庁舎：小規模で、小綺麗な建物。市長さんは女性、議員さんも女性が多いとのこと。



グレッズウッド牧場 (Gledswood winery) : 乗馬で牧歌的な田園生活を体験。



ホームステイ先：ホストファミリーのCysiさんのお子さんと一緒に



レインコープ福祉センター：職員の方は女性ばかり、老人の方のデイ・サービスはかなり充実。人手と補助金は十分ではない。

ホームステイに行ってきた

片言の英語に嬉しかった親切

石井 忍

私がまず始めに思い出すのは、オーストラリアの人々はとても親切であったということです。

私は交通手段としてバスを使っていたのですが、このバスがかなりの曲者で、エクスプレスが、A～Dまでありとても解りにくいものでした。そのため、よく乗り間違えたり、乗り過ぎたりして、とんでもない所まで行ってしまったりしたのです。そんな時見ず知らずの人に助けを求めるしかないのが、片言の英語で「ここへ行きたいのですが、」と言って尋ねました。すると本当に皆親切に、そして丁寧に教えて（答えて）くれるのです。たとえ自分の知らないことだったとしても、「どこどこへ行けば教えてくれるわ。行ってごらんさい。」と行くべきところを示してくれるのです。これは本当に、感激に値するものがあります。慣れない街で道に迷って心細い思いをしている時だったからこそ本当に嬉しかったです。オーストラリアは聞いていた通り、ゆったりしていて、皆心にゆとりを持っているのだなど痛感しました。

私は最近嫌なものをよく見てしまいます。

この前は、JRのホームで旅行客らしき人（日本人）が駅員さんに「〇×出口はどこですか。」と聞くと、その駅員さんは「あそこに見えてるのがわかんねえのか。自分で調べもしねえで聞くもんじゃないよ。」と怒鳴ったのです。その旅行客の人は、「すみませんでした。」と言って荷物を抱えながら行ってしまいました。これを見ていて本当に悲しくなりました。やはり日本人は無愛想で少しぶっきらぼうなところがあると思います（すべての人



がそうなのではありませんが)。

日本人に対してもこうなのですから、まして片言の日本語で話しかけてくる外国人に対しては……と考えると恐ろしくなります。実際に私も外人に道など尋ねられたら、たじろいでしまって逃げたくなくなってしまうと思います。でも、今回のオーストラリア訪問で、それではいけないんだと感じました。

国際化が進む中、私たちも、せかせかせず、心にゆとり（余裕）を持って、人に対して「親切」の気持ちを忘れずに生活していきたいと思いました。

態度で表わす家族への愛

林田由喜子

私はホームステイに行き、多くのことを学びました。語学の勉強はもちろんのこと家族の在り方や、物を大切にしている気持ちなど日本人には欠けているものを肌で感じることができたのです。ステイ期間は大変短く、たった二週間で一体何ができるのだろうと出発前は思っていました。私にとって、海外旅行自体が初体験で、何となく実感もないまま、オーストラリアへ乗り込んだ訳ですが行って帰って来た今では、何とも言えない心地良い充実感で一杯です。

まず家族の在り方ですが、皆が家族を大切にしている、その気持ちをきちんと言葉や態度で表しているのです。日本においても、家族を大切にしていることは同じですが、特に父親などは照れ臭いせいか、家族を愛していると言う事を、ほとんど口にしません。私のステイ先の家族は、お互いに宝物のような存在で、大好き、と言い合っていました。又、こうして家族を愛するように、家中の家具や庭をも同様に愛しているのです。

日本人は新しい物好きで、家具や電化製品など、新品が登場すると、今まで持っていた物が古く感じられたり、すぐ手に入れたりしますが、ステイ先の家族では、長く使っている物ほどますます工夫して使いやすくしていくのです。

家中のことは母親まかせ、ということはなく、常に家族全員が協力し合い、いかに快適な生活をしていくかという努力をしているのです。

私は、そこに人間の原点を見たような気さえしました。

市内の金融機関もKIFAの事業に協力しています



三和銀行

船橋支店 鎌ヶ谷特別出張所

鎌ヶ谷市富岡 1-9-25
☎0474(43)7121



京葉銀行

鎌ヶ谷支店

鎌ヶ谷市鎌ヶ谷 1-5-36
☎0474(43)3411



千葉銀行

鎌ヶ谷支店

鎌ヶ谷市富岡 2-1-1
☎0474(44)2111

この度のホームステイは、私にとって大変プラスになりました。家族の在り方以外にも、英語の重要さを改めて知ることができた上、今まで英語を学ぶのは、英語圏の人と話すため、と思っていた私の考えを大きく変えました。というのは、英語は単に英語圏の人との意思疎通の道具ではなく、地球語である、ということに気付いたのです。英語の存在の大きさをホームステイで痛感しました。

以上のことに気付くことが出来ただけでも今回のホームステイは、私にとって大変大きな経験にちがいありません。



心でコミュニケーション

川端 威智子

初めての海外！それだけで、出発前の日本での生活は、興奮と緊張の連続とそれと共に生じる期待に胸をふくらませていました。

しかし、オーストラリアが現実のものになると楽しいことだけで終わるはずもなく、当然困ったことも生じてきます。今思い返すとほんのささやかな問題ですが、その時は大変重圧をかけられた問題でした。

ホームステイをしていて最初の数日間、常に思っていたことは、「何か話さなきゃ。」ということでした。一日の終わりの家へ向かうバスの中で「今日は、あれとあれを話そう」という計画はたててみたものの、限りある私の英会話力の中の計画のため、私の計画英会話はすぐに終わってしまうのでした。こんなふうは何日かが過ぎ、英語を話さなきゃという気負いと自己嫌悪で、やや自信もなくなり、ホストファミリーの好意や親切に対して、思い通りに答えることのできない自分がもどかしくなりました。

しかし、そんな中でふと気付いたのでした。「そんなに

気負う必要はないんだ、自分が出来ることを精一杯すればいいんだ」と。そう思いはじめたら、肩の荷がおりたように楽になり、計画英会話をしていた時よりかえってスムーズに会話は続きました。コミュニケーションというのは、たった1つの相づちや表情1つでかなり深まるものだということをしっかり忘れていたのです。

短い期間のオーストラリアでのホームステイで感じたことは、国際的な交流は、小さなことから始めても、段々と広がっていく水の波紋のようなもので、努力次第で私にもその役割は果たせるのだということでした。そしてホームステイをしている間は、好奇心を持って、いろいろなものを見て気付いて、疑問が生じたら質問して、というように何事に対しても積極的に取り組むことが大切だと思います。そして必要以上に気負うことなく、心を大きく持てば、成功はかなり望めるでしょう。人のやる気や熱意は、国籍、人種を問わず、必ず伝わるものだと思います。

もし、私が次にホームステイをする機会があれば、今回のオーストラリアで学んだこと、反省したことを検討して、よりよいステイにしたいと思っています。



市内の金融機関もKIFAの事業に協力しています



船橋信用金庫
鎌ヶ谷支店

鎌ヶ谷市富岡 1-4-41
☎0474 (44) 2411



千葉興業銀行
鎌ヶ谷支店

鎌ヶ谷市東初富 6-9-24
☎0474 (43) 6911



住友銀行
船橋北口支店 鎌ヶ谷出張所

鎌ヶ谷市東初富 4-36-3
☎0474 (45) 8311

夏まつりで市民と交流

去る、8月24日、貝柄山公園を会場として、市民夏まつりが、盛大に開催されました。当日は、盛りだくさんの楽しい催しもの、そして、多くの市民の参加があり盛況裡に終了しました。



KIFAも参加し、活動事業の説明、グッズの販売、会員の募集などPRに積極的に取り組みました。

新しい仲間(会員)の加入もあり、所期の目的を達成することができました。スタッフのみなさん、ご苦労さまでした。

チャイを飲んだらインドが見えた



9月12日、交流部会は、南部公民館において、南部公民館との共催で、「インド料理にふれる日」を開催しました。料理の講師には、インドご出身(奥さんは日本人)のモハメッド・アリさんご夫妻を迎え、サモサとインド風ピラフの作り方を、ご指導していただきました。

種々なスパイスと、玉ネギのみじん切りに涙を流しながら本場の料理に挑戦しました。会食後、お二人と、対談形式でインドの文化や宗教、お二人のなれそめなどをお訪ねしたり、アリさんの細密画家としての作品

を拝見させていただきました。

その後、民族楽器タブラーで南国特有のリズムに魅せられた秋の昼下がりのひとときを過ごしました。

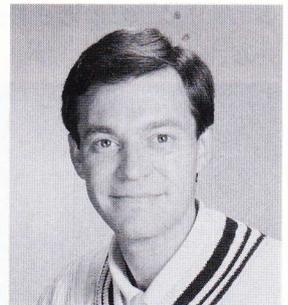
参加された方々から、このようなお料理の講習と異国のいろいろな文化にふれられたことは、とても楽しかったとのご感想でした。

世界の国々が集まります

市制施行20周年記念事業として、鎌ヶ谷市国際交流協会が中心となり、「ワールドフェア&バザール」を開催します。

正しい国際理解と豊かな国際感覚を身につけるとともに、鎌ヶ谷市の国際化、

国際交流の促進を図ることを目的とした国際色豊かな催しものです。



■実施日 10月6日(日) 10:00~16:30

■会場 三橋記念館

■事業内容

- | | |
|--------------|---|
| (1)講演会 | 講師 ダニエル・カール
演題 アメリカと日本の家庭 |
| (2)映画の上映 | ディズニーのアニメ、他 |
| (3)民族舞踊 | ロイヤルタイ舞踊団 |
| (4)パネル展示 | 写真展「ストリートチルドレン」
(日本ユニセフ協会)
通信総合博物館の資料展示、他 |
| (5)ワールド・バザール | 世界数ヶ国の食品、日用雑貨等の展示即売 |
| (6)その他 | 出店、市役所ハムクラブの公開 |

広報部会員募集

会報の編集・制作を手伝ってくれる仲間を募集します。(どなたでも大歓迎!)

一連絡先

鎌ヶ谷市役所内 鎌ヶ谷市国際交流協会事務局

TEL 45-1141 内線550

市内の金融機関もKIFAの事業に協力しています



三菱銀行

船橋支店 鎌ヶ谷特別出張所

鎌ヶ谷市富岡1-1-2
☎0474(45)2451



第一勧業銀行

鎌ヶ谷支店

鎌ヶ谷市道野辺952
☎0474(42)1121

会費納入のお願い

協会運営の推進を支えているのは、会員のみなさんの会費です。

今年度の会費が、まだ、未納の方は、お早目をお願いします。会費をお納めいただきません場合は、会員資格が失われてしまいます。